

平成27年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成28年3月
富山市（富山県）

○計画期間：平成24年4月～平成29年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、中心市街地活性化に向けて第2期中心市街地活性化基本計画に掲げる基本方針に基づき、「公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上」、「富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出」、「質の高いライフスタイルの実現」に関する3つの数値目標を達成するため、各種事業を推進・展開している。

平成27年度は、西町南地区において第2期富山市中心市街地活性化基本計画の主要事業である「西町南地区第一種市街地再開発事業」と「西町南地区複合施設整備事業（ガラス美術館、図書館本館、業務施設等）」により整備した「TOYAMAキラリ」が平成27年4月に完成し、親子連れや学生、観光客など市内外から多くの人々が訪れ、新たな賑わい拠点として活躍しており、総曲輪地区では「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業」を平成28年5月の完成に向けて推進し、「総曲輪三丁目地区第一種市街地再開発事業」と富山駅周辺地区の「桜町一丁目4番地区第一種市街地再開発事業」においても施設建設工事に着手するなど、中心市街地の活性化に向けて、各種事業を着実に進めてきたところである。

また、昨年度に一部完成した富山駅自由通路や駅前広場において、在来線を利用する市民や北陸新幹線により来富した市外からの訪問者に向けて、各季節行事や主要な観光イベントに合わせて民間事業者や市民団体等がイベントを開催するなど、これまでには無かった新しい賑わいを創出し始めている。

その取り組みの成果により、第2期基本計画で目標とする3つの数値全てが、平成27年度では大きく増加となり、中でも「路面電車市内線一日平均乗車人数」と「中心市街地の居住人口の社会増加」については基準値を上回る結果となった。

今後も引き続き、現在着手中の事業の早期完了に向けてさらなる推進を行い、また、「まちなか活性化事業サポート補助金」等の活用により、市民等が自主的に行う活動に支援し、事業に参画する市民一人一人が中心市街地の活性化を担う主役となる体制や仕組みづくりを実施することで、目標の達成に向けて展開していく予定である。

2. 平成27年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成27年度では、新たな賑わい施設である「TOYAMAキラリ」がまちなかに整備され、また、その開業に合わせて地元商店街によるオープン記念イベントが行われるなど、中心市街地の活性化に向けて官民が一体となって取り組んできている。

さらには、商工会議所が主導するイベント（越中・とやま弁大会など）や、その他民間事業者等が行うイベントなどにより、まちなかに大きな賑わいが創出された結果、3つの数値目標の全てが例年以上

に上昇しており、着実に中心市街地の活性化に対する成果が表れていると感じている。

残念ながら、「中心商業地区の歩行者通行量」は未だ目標値を大きく下回っているが、協議会としては、これまでの活性化に向けた取り組みにより、来街者が増加していると認識しており、この結果は、現在の調査地点だけでは中心市街地の実情を反映することが難しいと考えられることから、今後は、基本計画により新たな集客力を得た調査地点の歩行者通行量情報を加味することで、よりの確に現状を把握することに努められたい。

協議会としても、中心市街地のさらなる魅力の向上を目指して意見交換を行い、また、民間企業等にまちづくりへの参加を呼びかけるために、各支援機構等から先行事例の紹介及び支援メニューの説明を受けるなど、例年以上に定例会を開催し、計画のさらなる進捗に努めてきたところである。

来年度は第2期基本計画の最終年となることから、全ての数値目標を達成するためにも、行政と民間がより密接に連携・協力し、協議会においてもしっかりと助言・提案等を行いながら、共に中心市街地活性化に向けた取り組みを強化することが必要と考える。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上	路面電車市内線一日平均乗車人数	11,022 人/日 (H22)	13,000 人/日 (H28)	13,577 人/日 (H27)	①	①
富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出	中心商業地区の歩行者通行量(日曜日)	27,407 人 (H23)	32,000 人 (H28)	23,595 人 (H27)	①	①
質の高いライフスタイルの実現	中心市街地の居住人口の社会増加	332人 増 (H17/10～ H22/9)	390人 増 (H23/10～ H28/9)	609人 増 (H23/7～ H27/6)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

平成 27 年度の路面電車市内線一日平均乗車人数は 13,577 人となり、目標値を上回る結果となった。

前年との比較では 11.5%の増加、基準値との比較においては 23.2%の増加となっており、その要因としては、「富山駅路面電車南北接続事業」により路面電車市内線が新幹線高架下に乗り入れを開始したことや、「市内電車西町付近新停留場設置事業」が平成 25 年 5 月に完了したことにより利便性が向上し、平成 27 年 8 月に完成した「TOYAMAキラリ」の開業も相俟って、利用者数の底上げにつながったこと、実施中である「おでかけ定期券事業」の利用が浸透したこと、第1期計画で整備した路面電車環状線の乗車と組み合わせた複合的なイベントが民間主体で行われるようになってきていることなどが考えられる。

新たな賑わい拠点の整備である「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業(商業施設、映画館、ホテル及び駐車場)」を始めとした、目標達成に寄与する主要事業が完了に向けて進捗していることから、さらなる乗車人員の増加を想定しており、平成 28 年度の目標達成は可能であると見込んでいる。

平成27年の中心商業地区の歩行者通行量は 23,595 人となり、昨年と比べ大きく増加しているが、未だ目標値を下回る結果となった。

歩行者通行量は、状況把握を平均化するため年 4 回(3 月、5 月、8 月、11 月)調査の平均値を用いているが、平成 24 年 3 月調査では 33,247 人となるなど、調査時期によっては目標値を上回る結果も出ており、第1期計画で整備を行った賑わい拠点である「グランドプラザ」や「総曲輪フェリオ」等が着実に賑わいを創出し続けていると考えられる。

また、平成 27 年 8 月に開業した「TOYAMAキラリ」においても、市民が気軽に集い、憩える文化・情報交流拠点として幅広い世代から利用されており、新たな賑わいを創出し始めている。

このような状況の中、第2期計画に位置付けた「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業(商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設)」が平成28年5月の完成を予定していることから、新たな賑わい拠点と「グランドプラザ」等との間に回遊性が生まれることで、さらなる賑わいが中心市街地全体に広がるものと考えられる。

現在のところ歩行者通行量は目標値と比べ下回っているが、新たな賑わい拠点の創出による歩行者増を想定していること、また、これらに関連して行う賑わい効果を促進するための事業が、順調に進捗していることから、引き続き取り組むことで目標達成は可能であると見込んでいる。

中心市街地の居住人口の社会増加については、第1期計画に位置づけていた「中央通りf地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成(平成24年4月)や第2期計画に位置づけている「西町東南地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成(平成24年10月)に加え、まちなか居住推進事業の効果等により、平成23年7月から平成27年6月で609人の増加となり、目標値である390人を超える結果となった。

今後も、計画区域内において民間による分譲マンションの新たな建設が予定されていることから、居住人口の更なる増加を見込んでいる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「路面電車市内線一日平均乗車人数」※目標設定の考え方基本計画 P62～P66 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H22	11,022 人 (基準年値)
H23	11,476 人
H24	11,564 人
H25	11,539 人
H26	12,179 人
H27	13,577 人
H28	13,000 人 (目標値)

※調査方法；実測値による平均人数

※調査月；通年

※調査主体；富山地方鉄道株式会社

※調査対象；路面電車市内線

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西町南地区第一種市街地再開発事業（西町南地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】平成 27 年度
事業概要	旧大和百貨店跡地に公益施設(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等)を複合的に整備し、市民が気軽に集い、憩える文化・情報交流拠点とする事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 27 年 4 月にガラス美術館、図書館本館、業務施設等からなる複合施設「TOYAMAキラリ」が完成し、事業が完了した。 ガラス美術館では常設展や企画展が開催され、図書館本館では親子向けの行事や、学生向けの講座が行われるなど、気軽に集い、憩える施設として幅広い世代から利用されており、来客数調査では開業から平成 28 年 3 月末までに約 485,000 人の利用があったことから、新しい賑わい拠点として地区全体の活性化の底上げに繋がっていると考えられる。

②. 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業（総曲輪西地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	市街地再開発により、商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設を整備する事業である。
事業効果又は進捗状況	総曲輪西地区市街地再開発準備組合が平成 25 年 2 月に本組合に移行し、平成 26 年 8 月から既存建物の解体、平成 26 年 11 月から施設建築物工事に着手しており、当初の計画から 2 年の延長となる、平成 28 年 5 月の完成に向けて準備を進めている。

③. 富山駅路面電車南北接続事業（富山市/富山地方鉄道株）

事業完了時期	【実施中】平成 31 年度
事業概要	北陸新幹線開業に併せ新幹線高架下まで路面電車の軌道を整備する事業であり、将来的には富山ライトレールとの接続によりLRTネットワークの形成を図るものである。
事業効果又は進捗状況	北陸新幹線開業に併せ市内電車が新幹線高架下に乗入れを開始し、新幹線及び在来線との乗換利便性が大幅に向上した。引き続き、当初計画から1年延長となる平成 31 年度に向けて富山ライトレールの在来線高架下乗入れを推進する。

④. 市内電車西町付近新停留場設置事業（富山市/富山地方鉄道株）

事業完了時期	【済】平成 25 年度
事業概要	旧西武百貨店付近にて環状線新停留場を設置し、利便性の向上を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 25 年 5 月に事業が完了したことにより、中心市街地へアクセスしやすくなり、路面電車の利便性の向上につながっている。把握可能な利用者数である「IC カードにより運賃支払した降車人数」のデータで周辺停留場を含む4停留場の年間利用者数を調査したところ、新停留場開業前の平成 24 年度では 321,607 人だった利用者数が、開業後の平成 25 年度では 333,340 人、平成 26 年度では 345,288 人、平成 27 年度では 364,685 人と年々増加しており、地区全体の利用者数の底上げに繋がっていると考えられる。

⑤. おでかけ定期券事業（富山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	市内在住の 65 歳以上の高齢者が、バス・鉄道・路面電車で「おでかけ定期券」を利用すると100円で中心市街地に来街することが出来る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 27 年度のおでかけ定期券利用による路面電車市内線の一日平均乗車人数は 482 人となり、見込んでいた 300 人の利用を上回るなど、事業効果が表れている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 27 年度の路面電車市内線一日平均乗車人数は 13,577 人となり、目標値を上回る結果となった。

前年との比較では 11.5%の増加、基準値との比較においては 23.2%の増加となっており、その要因としては、「富山駅路面電車南北接続事業」により平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業に併せて、路面電車が新幹線高架下に乗入れを開始し、新幹線及び在来線から路面電車への乗り換えが容易となったことや、「市内電車西町付近新停留場設置事業」が平成 25 年 5 月に完了したことで中心市街地へア

クセスしやすくなり路面電車の利便性が向上したことに加え、平成27年8月に開業した「TOYAMAキラリ」に幅広く多くの人を訪れていることから、それらの相乗効果により利用者数の底上げにつながったこと、また、実施中である「おでかけ定期券事業」の一日平均乗車人数が平成23年度の288人から平成27年度には482人と67.3%増加するなど、利用が浸透してきたことなどが考えられる。

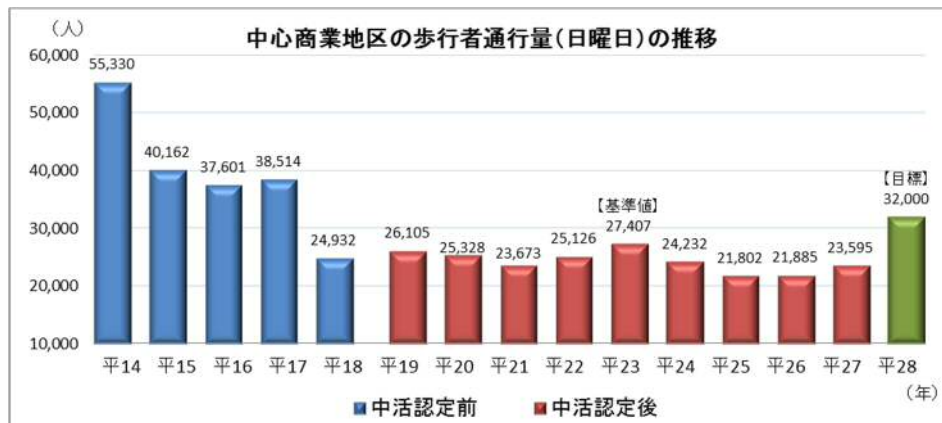
さらには、第1期計画で整備した路面電車環状線の乗車と組み合わせた複合的なイベント(夜のまちなかを仮装して周遊するナイトランイベントや、まちなかや路面電車を色鮮やかな明かりで彩るライトアップイベント、路面電車が通るモール周辺にて行う夜遊びイベントの同日同時開催など)が民間主体で行われており、乗車人員の増に寄与していると考えられる。

今後も、新たな賑わい拠点の整備である「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業(商業施設、映画館、ホテル及び駐車場)」が平成28年5月の完了に向けて進捗しており、事業に引き続き取り組むことで、さらなる乗車人員の増加を想定していることから、目標達成は可能であると見込んでいる。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心商業地区の歩行者通行量（日曜日）」※目標設定の考え方基本計画 P67～P72 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H23	27,407 人 (基準年値)
H24	24,232 人
H25	21,802 人
H26	21,885 人
H27	23,595 人
H28	32,000 人 (目標値)

※調査方法；中心商業地区 8 地点、11 時間連続調査

※調査月；3、5、8、11 月の平均

※調査主体；富山市・富山商工会議所

※調査対象；歩行者・自転車

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西町南地区第一種市街地再開発事業（西町南地区市街地再開発準備組合）

事業完了時期	【済】平成 27 年度
事業概要	旧大和百貨店跡地に公益施設(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等)を複合的に整備し、市民が気軽に集い、憩える文化・情報交流拠点とする事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 27 年 4 月にガラス美術館、図書館本館、業務施設等からなる複合施設「TOYAMAキラリ」が完成し、事業が完了した。 ガラス美術館では常設展や企画展が開催され、図書館本館では親子向けの行事や、学生向けの講座が行われるなど、気軽に集い、憩える施設として幅広い世代から利用されている。 来客数調査(日曜日平均)では開業から平成 28 年 3 月末までに約 3,637 人/日の利用があり、見込んでいた約 3,983 人/日には達しなかったものの、新しい賑わい拠点として地区全体の活性化の底上げに繋がっていると考えられる。

②. 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業（総曲輪西地区市街地再開発準備組合）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	市街地再開発により、商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設を整備する事業である。
事業効果又は進捗状況	総曲輪西地区市街地再開発準備組合が平成 25 年 2 月に本組合に移行し、平成 26 年 8 月から既存建物の解体、平成 26 年 11 月から施設建築物工事に着手しており、当初の計画から 2 年の延長となる、平成 28 年 5 月の完成に向けて準備を進めている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成27年の中心商業地区の歩行者通行量は23,595人となり、昨年と比べ増加しているが、未だ目標値を下回る結果となった。

歩行者通行量は、状況把握を平均化するために年4回(3月、5月、8月、11月)調査の平均値を用いているが、平成24年3月調査では33,247人となるなど、調査時期によっては目標値を上回る結果も出ており、第1期計画で整備を行った賑わい拠点である「グランドプラザ」や「総曲輪フェリオ」等が着実に賑わいを創出し続けていると考えられる。

また、平成27年8月に開業した「TOYAMAキラリ」においても、市民が気軽に集い、憩える文化・情報交流拠点として幅広い世代から利用されており、新たな賑わいを創出し始めている。

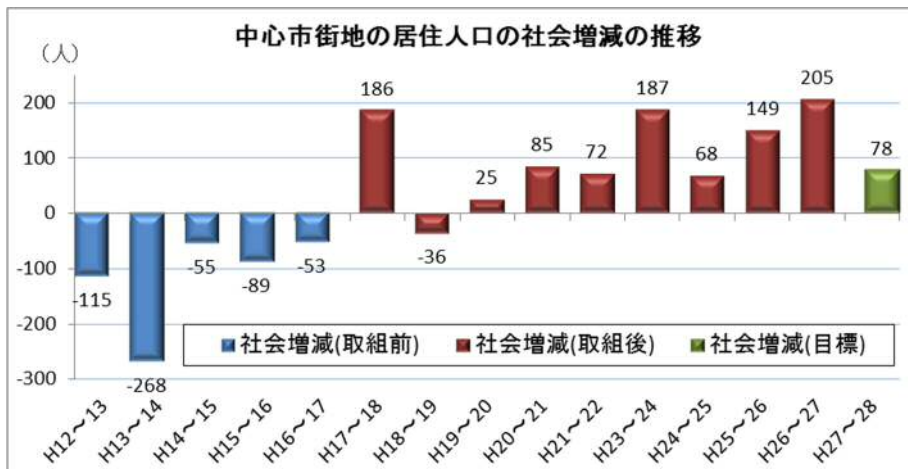
このような状況の中、第2期計画に位置付けた「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業(商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設)」が平成28年5月の完成を予定していることから、新たな賑わい拠点と「グランドプラザ」等との間に回遊性が生まれることで、さらなる賑わいが中心市街地全体に広がるものと考えられる。

現在のところ、最新の数値である平成28年3月の歩行者通行量が28,672人となるなど、未だ目標値と比べ下回ってはいるが、「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業」の整備による新たな賑わい拠点の創出により2,046人の歩行者増を想定していること、また、これらに関連して行う賑わい効果を促進するための事業が、順調に進捗していることから、引き続き取り組むことで目標達成は可能であると見込んでいる。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地の居住人口の社会増加」※目標設定の考え方基本計画 P73～P75 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H17～22	332 人増 (基準年値)
H23～24	187 人増
H24～25	68 人増
H25～26	149 人増
H26～27	205 人増
H27～28	
H23～28	390 人増 (目標値)

※調査方法；住民基本台帳データに基づく

※調査月；毎年7月～翌年6月

※調査主体；富山市

※調査対象；中心市街地の居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西町東南地区第一種市街地再開発事業（西町東南地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】平成 24 年度
事業概要	116 戸の共同住宅を計画する、まちなかの居住人口増加を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 24 年 10 月に共同住宅が完成し、事業が完了した。 なお、116 戸は共同住宅完成前に完売しているため、中心市街地の一世帯あたりの人員 2.17 人より積算し、251 人の中心市街地の居住人口の社会増加に寄与したと見込んでいる。

②. まちなか居住推進事業（富山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	まちなかにおける住宅取得に対する支援や家賃に対する助成などを行い、まちなかの居住人口増加を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成24年度以降の累計利用件数は、住宅取得補助 225 件、家賃助成 161 件であり、中心市街地の一世帯あたりの人員 2.17 人より積算し 837 人の中心市街地の居住人口の社会増加に寄与したと見込んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の居住人口の社会増加については、第1期計画に位置づけていた「中央通り f 地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成(平成 24 年 4 月)や第2期計画に位置づけている「西町東南地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成(平成 24 年 10 月)に加え、まちなか居

住推進事業の効果等により、平成 23 年 7 月から平成 27 年 6 月で 609 人の増加となり、目標値である 390 人を超える結果となった。

今後も、計画区域内において民間による分譲マンションの新たな建設が予定されていることから、居住人口の更なる増加を見込んでいる。